

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4770700179		
法人名	医療法人上善会		
事業所名	グループホーム星のふる里		
所在地	沖縄県石垣市新川2105番地		
自己評価作成日	平成26年8月16日	評価結果市町村受理日	平成26年11月19日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaizokensaku.jp/47/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kihon=true&amp;JizyosyoCd=4770700179-00&amp;PrefCd=47&amp;VersionCd=022">http://www.kaizokensaku.jp/47/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kihon=true&amp;JizyosyoCd=4770700179-00&amp;PrefCd=47&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 介護と福祉の調査機関おきなわ		
所在地	沖縄県那覇市西2丁目4番3号 クレスト西205		
訪問調査日	平成26年9月17日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> <li>・当法人では病院が併設しており、急変時や夜間時には速やかに対応ができる為、家族からは「心強くて安心」との声が聞かれる。</li> <li>・入居者の多くは民謡や踊りが好きで、地域の行事やイベントが開催される時は見学に出かけています。年間行事を計画し、月1回は入居者全員で出かけるようにしています。外出先での顔の表情は良く、事業所では見られない一面あり、今後も継続して行こうと思っています。</li> <li>・中学生の福祉体験学習や教職10年経験研修等を受け入れて、体験・実習を通して交流を含めながら、施設の理解と福祉・医療の知識を肌で感じてもらっています。</li> <li>・近隣の小学校との交流があり、入居者は自分の孫のように接して、とても喜ばれています。</li> </ul>
---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>当事業所と同一敷地内に協力病院と介護老人保健施設があり、夜間や急変時などの医療連携の体制が構築され、家族の安心感に繋がっている。利用者担当制をとっており、職員は、担当する利用者の個別支援計画書にケアを通しての気づきをその都度記載して提出している。また、介護計画に沿った支援が行われているかどうかを介護記録の中で日々評価するシステムになっており、モニタリングや担当者会議、計画の見直しなどに反映させている。個々の利用者の状況報告が年数回個別に作成され、管理者が自宅を訪問して家族に直接届けている。家族交流会や敬老会などの事業所行事への家族の参加も多く、外出支援などでも家族の協力が得られており、家族との関係性は良好である。</p>
---

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

確定日：平成26年11月11日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は毎朝唱和し、入居者1人ひとりの意思や人格を尊重し、その人らしく生活していけるよう、できることへの支援を具現化している。管理者はミーティングや意見等検討課題があれば一緒に共有し、話し合い、実践している。	理念に、「家庭的な環境、地域や医療機関、家族と連携し安心した生活」及び「利用者の尊重と自立支援」が謳われている。理念と、職員から募った毎月の目標が事業所内に掲示され、調査実施月の目標は「衛生管理の徹底」であった。職員は利用者の立場に立った支援に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事等には積極的に参加しています。近隣の小学校運動会の見学をしたり、生徒がホームへ来訪して交流を行うなどしている。近くのスーパーや市場に食材の買い出しと一緒に出かけたりする等、近隣、地域との触れ合いを大切にしている。	地域の情報は公民館長から得て、地域行事の見学に参加している。小学校の行事に参加する一方、小学生が来所して利用者に話を聞いたり、似顔絵を描いたり、日めくりカレンダーを作ったりする交流もある。散髪ボランティアや中・高校生の職場体験なども受け入れている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	中学生・教員等の体験学習や実習を通して、認知症の理解を深めるうえで、ホームの入居者と接してもらっています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では取り組みへの評価やアドバイスを頂いている。取り上げられた検討内容をミーティング等で話し合いを持ち、改善するところは速やかに取り組んで、次へのステップに繋げている。	運営推進会議は毎回行政職員が参加して年6回開催され、欠席した委員には資料を送付している。外部評価結果も報告し、事故等は検討結果も含めて報告し、地域代表から地域の情報提供もある。「伝統行事はやった方が良い」との委員からの提案が運営に反映されている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	毎回、運営推進会議に担当職員へ生活の場を見てもらいながら、ホームのサービス提供状況や事故報告・活動内容を報告している。またケアの内容についてアドバイスももらい、協力関係を築いています。	ケアマネージャーを兼務している管理者が、毎月行政の窓口に出向いており、主に事業所の状況報告を行っている。行政の担当者からは、講演会などの情報がファックスで送信されてくる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	基本的に身体拘束はしていません。どうしても必要な場合には、職員全員で検討し、家族の同意を得てから行うようにしています。	玄関はセンサーを設置し、職員は利用者の出入りを見守りで支援している。拘束については契約や面会時に家族に説明している。職員は勉強会で拘束を実際に体験し、拘束しない工夫を検討して、ベッド柵の位置の変更やクッションの利用などで対応している。	

沖縄県（グループホーム星のふる里）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待の勉強会は、ミーティング等で学習し理解している。現在は新入職員もいるので虐待の認識をさらに、管理者と職員とがいつでも情報の共有化ができる環境体勢を築いていきたい。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護・成年後見制度については、定例のミーティングで話し合ったこともあり、職員も理解しています。今のところ関連する事例がないのですが、もし事例が発生しましたら関連機関との連携をとり、話し合いをしていきたいと思っております。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関する説明は、時間をかけて丁寧に説明し、家族の質問も聞きながら確認し、家族より同意を得て、署名・捺印を頂いています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置している。面会や訪問時に家族より苦情(意見)があれば対応するようにしています。行事の際に「私も行きますから声をかけて下さい」との家族の声もあり、運営推進会議でもサービスについて家族に意見を伺うようにしています。	利用者の意見は直接聴き、家族の要望などは面会時に口頭で聞いている。「美容室に行ってみたい」という利用者の意見で美容室利用の支援が継続され、「プルーンで便秘予防を」という家族の要望もケアに取り入れている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員に「入居者にどう過ごして欲しいのか、どんな支援をしていきたいか」を各入居者担当に計画を立案してもらい、入居者のケアの質の改善、事業所運営への環境整備等に活かされています。	職員の意見は業務改善係で検討し、ミーティングや申し送り時に管理者に伝え、居室などの掃除が箒から掃除機に変えられた。職員面接で「仕事に来るのが楽しい」という言葉が聞けた。法人として職員の資格取得を推奨し、取得後は正採用されて、異動することになっている。	法人の方針として、資格取得後は正採用し、異動させることになっているが、馴染みの職員の異動は、認知症の利用者の不安感が増すなど、与える影響が大きい。利用者と職員の馴染みの関係への配慮が望まれる。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個人のもつ資格や勤務の状態(夜勤)により、手当てを支給し、就業環境整備されている。資格取得試験等では、優先的に勉強できるように勤務を組み、やりがいや自己の向上心を持って働けるよう条件整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人全体での研修では、外部の講師を依頼しての職員研修や研修の報告会等を行っている。又、沖縄県グループホーム大会においても研究発表に取り組み、職員全体で検討・話し合いし、発表している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	沖縄県グループホーム連絡会より情報入手し、管理者会議、研修等に参加している。又他の事業所との情報交換も行い、サービスの質の向上に取り組んでいる。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居当初は慣れなくて不安で落ち着かない様子である。職員は積極的に入居者が困ったことはないか、小さなことでもいいから傾聴し、声掛けして本人の思いを確認している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時には面接を行い、家族の不安や要望を聞いて入居者が入居して不安なく、安心して生活が送れるようにする。又入居後も面会や訪問時には状況を報告し、家族への配慮を欠かさず関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談・入居についての面談の時は、本人・家族の意向を確認し、本人に合ったサービス、本人が必要としているサービスの情報提供を行い、当ホームに該当しない時は、他施設に紹介を行っています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員には、日頃より介護する側、される側という見方をしないで、共に支え合う共同生活者としての関係を築くように促している。又人生の先輩から学ばせてもらっているという姿勢を大事にしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事等外出する際は、家族にも声掛けして参加を促しています。家族の絆が途切れることがないように、各家庭に状況報告を自ら届けて、家族との関係を築きながら情報提供にも心がけている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ドライブの途中で自宅へ寄ったり、行きつけの美容室へ行ったりして、馴染の関係が途切れないよう支援しています。又毎週自宅へ外出される方には家族にも協力してもらっています。	利用者は馴染みの美容室へ行ったり、全員で近所のスーパーで食材費によるおやつ物の買い物をしたり、同級生や知人に会って話したりしている。職員と一緒に、退去した人に面会に行く利用者もいる。地域社会での関係性は本人や家族に聞いてその把握に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	フロアで手作業等する時はお互いに声掛けをし、お話ししながら共同生活での関わり合いを持ち、お互いに支え合える支援をしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去して、他の施設へ移動されても忘れ物があったりして、面会に伺ったりしています。又顔見知りの入居者と共に面会し、交流を継続しています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者1人ひとりの希望・意向は本人に伺うようにしています。意志疎通が困難な方は、日々の生活の中から観察して、家族からの聞き取りで本人の思いを確認し、本人本位に取り組んでいる。	利用者の思いや意向は、日々の会話を通して把握している。困難な場合は、本人の表情や仕草などを観察したり、面会時に家族から情報を得たりしている。職員は利用者寄り添い、その人らしさを引き出す支援に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの情報は、家族からの情報や本人との会話の中から生活歴や馴染みの暮らし方の把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者の状態によって、1人で過ごす時間を大切にしながら見守りを行っている。出来ること、出来ないことを把握し、本人の能力を引き出せるように、ケアの質の向上に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の生活の中から、本人のその思いを聞き取りながらカンファレンスを行い、職員には支援計画を提出してもらい、各担当者話し合い、状況に応じては全体でミーティングを持ち、又家族も含めたチームで様々な意見やアイデアを取り入れ、プラン作りをしている。	理念や担当職員の気づきに基づき、毎月のミーティングで自立援助の目標を話し合い、3ヶ月毎にモニタリングと見直しを実施している。担当者会議は本人と家族、担当者が参加してそれぞれの意見を計画に反映させ、歩行訓練や食器洗いなどの個別の計画を加え、作成されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録は日々の気づき・状態・状況・工夫等を記入しています。職員間でプランを共有することによって、状況・状態の変化を知り、ケアプランの見直しに活かしている。		

沖縄県（グループホーム星のふる里）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	定期受診は病院が併設しているので事業所で行い、診察結果は家族へ報告し、主治医の指示があれば報告している。急変時は家族に連絡・付添いをお願いし、送迎は柔軟に対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の情報は隣接する公民館の館長より情報を頂いているが、隣近所との交流はまだまだ達成されていません。事業所紹介のパンフレットを配布して、今後も粘り強く取り組んでいきたい。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	病院は隣接していて、いつでも受診できる状況にある。定期受診は職員が対応し、主治医が家族の同伴を求めれば家族に連絡し、話を伺うようにしています。	利用者の殆どが、隣接する法人病院の医師をかかりつけ医としている。定期や他科受診は、家族が同行したり、職員が対応したりしている。受診の結果は家族に聞いており、職員が対応する時は家族に電話で報告している。利用者の急変時は、当直の医師が往診している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎朝看護師には、健康状態・気づき・変化等を報告しています。又気になる方がいたら様子を見てもらい、相談したり、指示を仰いだりしてもらっています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際には、受け入れが出来る様病院との医療連携をとっている。入院中には面会に行くなどして、病院関係者との情報交換や担当者との相談に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期についての勉強会は定期的に行っており、職員間で情報は共有できています。現在は対象者はいませんが、重度化してきたら家族・主治医・事業所との話し合いを行い、事業所で出来ることを説明して、関係者と共にチームで取り組んでいきます。	重度化や終末期に向けた事業所の方針が作成され、緊急時や看取りに対する意向は、利用開始時に利用者や家族に確認している。かかりつけ医との意見交換や職員研修も実施しており、チームで看取りに取り組む体制はあるが、事業所としては実績がなく、不安がある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や緊急時の対応についてはミーティング等で勉強会を行っています。又消防署に「AED・心肺蘇生法練」も受けています。新職員もいるので、勉強会を継続していきます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を年2回行っていますが、内1回は夜間想定訓練を実施しています。地域の方には協力の声掛けをしていますが、まだ広報不足なので、粘り強く隣近所に訪問して参加を呼び掛けて行きたいと思えます。	年2回、隣接する母体法人施設の職員の協力を得て、火災や地震災害に対する避難訓練を実施し、その内の1回は消防署も立ち会っている。夜間想定訓練も行い、防災設備も整備され、飲料水と食糧などの備蓄は母体法人の施設で3日分準備している。訓練に、近隣住民の参加や協力が得られていない。	当事業所は高台にあり、津波による災害は考えにくいですが、市の地域防災計画に基づき、事業所独自の防災マニュアルを作成して、地域住民の参加や協力のもとに訓練を実施することが望まれる。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日々のケア時の言葉かけは、人生の先輩であることを念頭におき、本人のプライドを傷つけないように配慮している。誇りやプライバシーを損ねない言葉や声掛けをするように心がけている。	利用者は生活する主体であり、職員はそのパートナーとして利用者を敬い、言葉遣いにも配慮して支援するよう、管理者が会議や研修会などで話している。排泄や入浴の支援は、利用者の意思を尊重して同性介助を基本とし、異性が介助する場合は本人の了解を得ている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	行事等で外出する時や室内でする時は、お化粧や身だしなみができるように、本人が気持ち良くできるよう支援している。本人の思いや希望が表出できない方は、その人の時代背景を考えたり、家族より情報を得たりしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者1人ひとりのペースを大切に、起床時間、食事時間等、本人の生活リズムに合わせて支援している。レク等に参加されない時時は無理強いせず好きなことをさせています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出時には化粧されたり、服を選んでもらったり、入浴日には衣類を本人に選んで頂いたり、身だしなみやおしゃれを支援しています。理容所や美容室等馴染みの所に行かれる方には、家族と連絡し、送迎を支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	料理に使う野菜の皮剥きや米洗い、食事の盛り付け、配膳、食器洗い等、入居者が中心となって行っている。時にはレストランで外食したりと食事を楽しむことができる工夫をしている。	食事は3食とも事業所で調理している。利用者は野菜の皮むきや洗米、食事の盛りつけなどを職員と一緒にしている。管理者は利用者と一緒に同じ食事を摂っているが、職員は食事の介助が終わってから、持参した弁当を休憩時間に別室で食べている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の量が細い方には、高カロリードリンクを飲用しています。水分摂取量はコップで量の配分を決めて、毎回の水分量をチェック表に記入している。水分補給量が少なくなってきた時は補給策を職員で検討し、場合によっては主治医に相談する。		

沖縄県（グループホーム星のふる里）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアは、毎食後声掛けし行っている。磨き残しがないかどうか確認し、来ていないところはフォローして口腔内清潔を維持している。入れ歯の方は、洗浄剤につけ置きして清潔を保っています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレ誘導は、1人ひとりの排泄パターンがあるので、各自違っている。排泄の失敗はありますが、オムツの使用枚数を1枚でも減らしていくように、朝・夕の申し送り等で話し合い、自立に向けて支援している。	利用者一人ひとりの排泄パターンを把握してトイレに誘導し、自立に向けて支援している。夜間はポータブルの利用者が2人いる。排泄に失敗した時は、さりげなく浴室に誘導して対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の様にリハビリ体操、散歩を取り入れ、体を動かす運動をしています。食事には乳製品や食物繊維を取り入れたメニューにしています。又家族の意向で「プルーン」を持参して頂き、便秘予防に取り組んでいます。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的には週3回だが、希望に応じて毎日入浴の方もいます。午前入浴をしていますが入居者の希望する時間帯があれば個々に添った支援をしています。入浴を拒否する場合は、無理強いせずに時間を変えて声掛けし、翌日に変更する場合があります。	入浴は週3回午前中を基本とし、毎日の入浴や時間帯の要望にも応じている。入浴を拒否する場合は翌日に変更している。入浴中は民謡など利用者の好きな音楽を流し、寒い日は足湯をしたり、ヒーターで浴室を暖めるなど工夫をして入浴を支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活習慣に合わせて、入眠時間や休息時間は本人に確認して誘導している。居室以外でも本人がくつろげる場所で話したり、休息ができるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬のチェック表があり、職員がいつでも内容を確認できるようになっており、誤薬の防止に努めています。病院受診時に必要に応じて主治医に服薬の相談したり、健康状態を報告し、安心して対応することができている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者にあった役割を担えるように職員が付き添い声掛けしている。ぬり絵、パズル等日々の得意なこと、楽しめる活動を支援している。又、花木・庭の野菜畑の水遣りも楽しみながら行なっている。		

沖縄県（グループホーム星のふる里）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物やドライブは、入居者の希望も添えながら支援をしています。又、毎月1回は全員で外出して気分転換を図るようにしています。行事(家族交流会・敬老会等)には多くの家族に参加してもらい、一緒に楽しんでいます。	月1回は、家族の協力を得て全員でショッピングやドライブに出かけ、季節の草花を摘んで部屋に飾り楽しんでいる。毎日一人で敷地内を散策して自然を眺める利用者を、職員は見守っており、気分不良で不穏になった利用者には、ドライブに誘い、気分転換を図らせる支援もしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	以前にはお金を所持している方がいたが、今は全くお金のことにも触れず、申し出もない。家族の方が時々、入居者の好物等を持参してきます。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	電話はいつでも掛けられるように支援しています。本人からの「電話をかけたい」と申し出がある時は、家族へ電話をかけています。電話を取り次いだ時は、夜中以外は取次できるように支援しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロア・食堂の天井には、その時期のものを飾り、季節感を出すようにしている。入居者の方からも「あれきれいなね」とか声が聞かれる。又、フロアで過ごされている時に、民謡や適切なBGMを流し、居心地良く過ごせるよう心掛けている。	畳間を撤去してフロアが広くなり、利用者はソファや車椅子でゆったりと過ごせるようになった。毎朝換気を行い、適当な音量の音楽を流し、共用空間の飾りは季節毎に替えている。利用者が書いた屋敷のメニューや体験学習で訪れた小学生が描いた利用者の似顔絵が貼られている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアに共用空間として、ソファを設置して落ち着いて本を読んだり、足のむくみのある方は、足を上げてリラックスしたりしている。家族の訪問があった時も、一緒に過ごせることができる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の方には、本人の私物・使い慣れたもの・馴染みのものがあれば持ち込むように促している。ある居室には家族の方が、写真を貼ったり、絵を飾ったり、飾り物を置いたりして、本人が居心地良く過ごせるようにしている。	離島の名を居室名にし、入り口に入居者の顔写真を貼り、自室が分かりやすい工夫がされている。小学生が描いた似顔絵が居室にも飾られている。各部屋に洗面台が設置され、希望者にはテレビも置かせている。本人の作品や写真、ラジオなど馴染みの品も持ち込まれている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室のドアに本人の写真を貼ったり、トイレの入り口にトイレの表示をして、場所を迷うことなく利用できるよう工夫している。又、玄関には帽子を置いていて、外に出る時は玄関で帽子をかぶり、外から入ってきた時は帽子を置くように、わかりやすくしている。		